

記事を読んで下の問いに答えましょう。

社説 家事・育児時間に男女差

6歳未満の子どもがいる県内の共働き世帯が1日に費やす育児や家事関連時間は、妻が夫より長時間に及んでいることが国の2021年社会生活基本調査で明らかになった。その差は育児で3時間10分、家事関連で5時間10分だった。専門家は背景に社会的性差であるジェンダー差があり、子育てや家事は女性がすべきだという意識があるとみる。

ジェンダー平等を実現するには、この意識を改めねばならない。ただ改めようにも、社会の仕組みを変えなければまならない。その一つが長時間労働だ。男性が家事・育児に、より参加できるようにするために働き方改革を一

層を進める必要がある。家事関連時間について妻と夫の時間差を沖縄と全国で比較すると、全国は4時間36分で沖縄よりも34分短い。沖縄の共働き世帯の妻の方が、全国より負担が大きい。最近20年で見ると、男性は微増して

を掛けた。20年の内閣府調査では、家事、育児それぞれで時間が増えたとする女性は男性の約1.5倍に上った。日本は海外と比べても男女差が大きい。内閣府の19年版「男女共同参画白書によると、夫が育児・家事関連に費やす

境の影響もあるとみられる。内閣府の国際意識調査で「自国が子どもを産み育てやすい国だと思ふか」と問うと、日本は「そう思う」が38.3%で「そう思わない」が61.1%だった。他国は「そう思う」がスウェーデン97.1%、フランス82.0%、ドイツ77.0%。日本は育てやすいとする割合が突出して低い。産み育てやすい国と思う理由を見ると、日本は治安の良さで最多だった一方、フランスやドイツは「妊娠から出産までの医療が充実」「保育サービスの充実」が、スウェーデンは「教育費の支援や軽減」が多かった。日本は3カ国に比べ、こうした子育て支援の項目の割合が低かった。社会の仕組みを改めるといふ課題は、長時間労働の改善のほかにも、医療・保育サービスや教育費支援の充実も挙げられる。まずは若い世代への支援を厚くすることが肝要だ。これらに政治や行政、企業、社会が丸ごと取り組む必要がある。

意識や長時間労働改めよ

夫の休日の家事・育児時間が長いほど第2子出生率が高いとの調査結果もある。男性の家事・育児参加の推進は少子化対策や女性が活躍できる社会の実現にもつながる。

【1】育児や家事をする時間は妻と夫どちらが長いですか。

妻

【2】「働き方改革」を進めるために、「働き方改革関連法」が施行されていますが、いつ公布されましたか。調べてみましょう。

2018年

【3】「ジェンダー平等」はSDGsにおける17の目標のうち、何番目の目標になっていますか。

5番目

【4】沖縄の家事関連時間の妻と夫の時間差はどれくらいですか。

5時間10分

【5】「拍車を掛ける」の類義語として正しくないものを一つ選びましょう。

ア・促進 イ・助長 ウ・悪化 **エ**・進化 オ・発展

【6】家事関連時間が長いこと、時間外労働の多さが指摘されていますが、身近な大人がしている家事にはどんなことがあるのかを聞いてみましょう。また、時間外労働についても聞いてみてください。

ヒント：お風呂掃除、食事の準備、片付け、選択、食事のための食材の買い物などがあります。気づいてないものもあるかもしれませんので、いろいろな人に聞いてみると良いでしょう。

また、時間外労働については、国は1カ月45時間、1年で360時間以内という指針を出していますが、なかなか守れていない現状もあるようです。いろいろな職業の人に現状を聞いてみましょう。

作問・國吉美穂 興南中・高校教諭（NIEアドバイザー）